

1. 評価結果概要表

[認知症対応型共同生活介護用]

【評価実施概要】

事業所番号	4570101339
法人名	医療法人社団 仁和会
事業所名	むつみ苑グループホーム平和ヶ丘
所在地	宮崎市池内町前吾田1096番地 (電話) 0985-30-2855
評価機関名	宮崎県医師会サービス評価事務局
所在地	宮崎市和知川原1丁目101番地
訪問調査日	平成20年3月24日

【情報提供票より】(20年 3月24日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 13 年 2 月 1 日
ユニット数	1 ユニット
職員数	8 人
利用定員数計	9 人
常勤	8 人
非常勤	1 人
常勤換算	8 人

(2) 建物概要

建物構造	木造平屋 造り
	1階建ての 1階 ~ 1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	36,210 円	その他の経費(月額)	円	
敷金	有(円)	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり 1,200 円			

(4) 利用者の概要(3月1日現在)

利用者人数	8 名	男性	1 名	女性	7 名
要介護1	2 名	要介護2	2 名		
要介護3	2 名	要介護4	1 名		
要介護5	名	要支援2	1 名		
年齢	平均 85.6 歳	最低	78 歳	最高	92 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	竹内病院 小村歯科医院
---------	-------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホームは閑静な住宅街にあって、8年目を迎え、すっかり地域に馴染んでいる。隣接する同法人のホームとの中庭をはさんで南向きの玄関があり、木造平屋造りの清楚で落ち着いたホームで入居者は安心してのんびりと過ごされている。近隣に同法人の老人保健施設があり、緊急時の対応を含め、レクリエーション活動や車での外出などサポートや交流がある。また、地域住民や保育所との交流も行われている。研修や記録類も整理され、これまでの取り組みが、こつこつと積み重ねられている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の評価で指摘のあった運営理念や、注意の必要な物品の保管場所や管理方法、苦情相談、感染症等のファイル作成など職員全体で協議し、改善に向けた取り組みがなされている。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	外部評価をサービスの質の向上の機会と受け止め、職員全員がそれぞれ自己評価に取り組んでいる。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	民生委員、包括支援センター職員、家族代表、管理者、職員の参加で、定期的に開催している。活動報告や防災訓練の見学など行い、ホームの理解を深めていただくような内容になっている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族の来訪も多く、報告を細かく行いながら、家族とのコミュニケーションを深め、小さなことでも意見や不満、苦情が出しやすいようにしている。
重点項目⑤	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	近隣住人や散歩コースの保育園児たちと日常的なご近所づきあいが行われている。ボランティアの来訪もあり、地域交流が行われている。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	ホームは、利用者がこの地域で生活を継続するために、「仲間と一緒に楽しい暮らし(仲間の力をいかしたケア)」「外に開かれた生活(地域や自然をいかしながらのケア)」「家族と共に楽しめる」として項目を解りやすく掲げている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	言葉かけ、態度、記録など日々のケアにおいて理念が実践の中に活かされている。毎月のミーティングで項目を取り上げ、理念を深めるような話し合いを行っている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域住人やボランティアが来訪してくれるなど、地域交流が行なわれている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価の意義と狙いについて、全職員で話し合い、自己評価に取り組んでいる。評価で指摘のあった点も全職員で協議し、改善に努めている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、民生委員、包括支援センター職員、家族代表、管理者、職員の参加で、定期的開催している。活動報告や防災訓練の見学などを行い、ホームの理解を深めていただくような内容になっている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市介護相談員の訪問を受け入れ、ホームの理解と支援の働きかけを行なっている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族来訪時には声をかけ、必ず利用者の状況を伝えるとともに、家族の状況についても把握するように努めている。些細な事も電話などで利用者の状況を伝えている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時の会話中に、意見や苦情の言い易い雰囲気を作るよう努めている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動は無いので、利用者となじみの関係が保たれている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	日常的に学ぶことを推進し、会議や研修への積極的な参加の機会を設けている。研修後は、復命書による報告を行い、サービスの質の向上に努めている。業務中に「気づき」があれば、「メモ」にして「意見箱」に入れるようにして、毎月のミーティングで全部議題にして検討するようにしている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会の研修会には毎回参加し、意見交換を行ない質の向上に取り組んでいる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用開始前に職員が面会したり、ホームに来訪されたり、本人が徐々に馴染みながら、サービスの場に移行できるよう支援している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	家事や散歩、体操など日常を共にしながら昔の慣習や歌などを教わる。冗談を言って笑い合ったり、眠れないときには添い寝をして支えあう関係を築いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の日常の言動を細かく観察し、思いや暮らし方の希望や意向などを汲み取る取り組みに努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者の担当職員、介護支援専門員、管理者がミニカンファレンスで意見を抽出後、全職員のカンファレンスを開き集約する。この計画を家族と話し合い介護計画の作成をしている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	利用者、家族、関係者と話し合い、月に一回ミーティングを開き全職員が必要に応じて、介護計画の見直しを行なっている。職員が気づいたときにいれた意見箱から、アイデアや意見などが提示され見直しに活かされている。		定期的には、3か月に1回の見直しが行われているが、毎月のミーティングを活かして、状態の変化のない場合にも、毎月の見直しに取り組んでほしい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	ホームの行事としての取り組みの他、個人レクリエーションで馴染みの店での買い物や美術館への外出支援など柔軟な対応をして個々の満足度を高めるよう努力している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族の意向によって、かかりつけ医、医療機関への受診支援を行なっている。また、歯科医の訪問治療も受けている。受診には情報提供書を作成し、適切な医療を受けられるよう支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	状況の変化に応じて繰り返し話し合い、段階的な合意に努めている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	一人ひとりを大切に、自尊心やプライバシーを傷つけないよう配慮した言葉かけや対応ができるよう取り組んでいる。個人情報の取り扱いにも留意している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	それぞれのペースを尊重し、寄り添う柔軟な対応に配慮している。本人の思いに応えられる支援を常に心がけている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者と職員が同じ食卓を囲み、同じものを食べている。食事は和やかな雰囲気、さりげないサポートをしている。食事の後片付けなどは利用者の力を活かしながら、職員も一緒に行なっている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者の体調やその日の気分に合わせて、その人に合った入浴が毎日できるよう支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	台拭き、食器洗い、洗濯物干し、洗濯物たたみなど家事手伝いや、小物作り、散歩、レクリエーションなど一人ひとりの力を引き出していく支援をしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	通所施設でのリハビリ、散歩などその日の天候を考慮した外出支援を行なっている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	利用者一人ひとりの外出傾向を把握して対応している。玄関、居室の窓などには日中、鍵をかけていない。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	防災訓練は年2回実施し、運営推進会議のメンバーや地域住人の見学もあった。通報の実際を体験することができ有意義な機会となっている。		地域住民の協力を得て訓練への参加も得られるようになるといいですね。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの嗜好を把握し、食事摂取量、水分摂取量を記録している。利用者の状況に応じて、さりげなく水分摂取を促すなど適切な支援が行われている。献立にも偏りのないメニューの工夫をしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間は、天井からの自然光が優しく照らし、空気のよどみがない。使いやすいしつらえに造作され、利用者が心地よく過ごせるよう工夫されている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室ごとに窓からの景色が違いうように、季節の花のガーデニングが工夫されている。隣家との空間を活かした花や樹が季節を感じさせてくれる。使い慣れたものや好みの家具などで、居心地よく過ごせるような工夫をしている。		